

人工呼吸器を装着し、小学校に通う児と訪問看護師のかかわりを考える

目標

関係法令や制度・施策の学習をもとに、行政・教育・医療・福祉等との連携を図りながら、児や家族と継続的にかかわる事の必要性を考えることができる。

事例)

生後間もなく人工呼吸器を装着し、その後在宅療養をしていた。来年小学校へ入学することになり、両親は「特別支援学校に進学し集団での教育を受ける機会を得る」ことを希望している。しかし、学校の通学バスに乗れるのは医療的ケアの無い児のみであったため「通学手段の確保」が課題である。さらに、児は人工呼吸器を装着して24時間のケアが必要であるため、学校からは母親の付き添いを求められていた。母親は、夜間の睡眠も十分に取れないような状況で小学校に付き添うと身体的負担が大きく体調に影響がでる恐れもあったため、「学校で親の付き添い」も課題であった。

(日本地域看護学会教育委員会からの情報提供)



言葉の意味を理解しよう

☐ 特別支援学校とは

☐ 医療的ケア児とは



以下の3つの問いについて考えてみよう

問1: 「通学手段の確保」と「親の付き添い」が課題となる理由は何か。

1) 通学手段の確保の理由

2) 親の付き添いが求められる理由

問2：この2つの課題を解決するために、訪問看護師なら、どのように働きかけるか。

1) 通学手段をどのように確保したらよいか

2) 母親の付き添いを解消するためには

問3：児のコミュニケーション手段を確立し、健やかな成長・発達を支援するために、更に連携できるサービスは何か。

1) 母親が休養できるように活用できるサービスは何か

2) 児の成長や発達支援をするために、連携をとる人々とはどういう人々か

I

課題提出について

クラス	授業日	課題提出日	課題提出時間・場所
1組	9月27日(月)	10月1日(金)	8時25分時間厳守(配点2点) 教室の前に山本のBOXを設置しています。
2組	9月30日(木)	10月4日(月)	

